



## 見頃の薬用植物

ハブ茶に用いる薬草は右か、左のどちらでしょう。

### ■エビスグサ (夷草) *Cassia obtusifolia*

生薬名：決明子（けつめいし）  
薬用部位：種子  
薬効：緩下、整腸、便通



### ■ハブソウ *Cassia torosa*

生薬名：望江南（ぼうこうなん）  
薬用部位：種子  
薬効：整腸、利尿、健胃



二つの植物はよく似た花を付ける。エビスグサの葉は先端が丸く、果実は下に伸びるが、ハブソウの葉は先端が尖り、果実は上向きに伸びることから区別できる。

エビスグサは中央アメリカ原産で、熱帯アジア、中国、そして日本に渡来した。異国から渡来した草という意味で「夷草」の名が付けられた。種子を焙煎した「決明子」は便通改善を目的とする民間薬「ハブ茶」として服用される。しかし、本来のハブ茶は、ハブソウの種子「望江南」であったが、栽培収量が悪いため決明子を代用としたところ、いつの間にか取って代わった。ハブソウの「ハブ」はマムシなどの毒蛇のことで、葉汁を咬まれたときに用いたことに由来するが、実際のところはさほど効果がなく、虫刺されには用いられる。

決明子は、薬としてよりも茶剤や健康食品として便秘改善や健康増進を目的に使われる場合が多いが、その歴史は古く、中国最古の医学書『神農本草経』の時代から眼病に使う医薬品であった。そのことは「決明（目を明らかにする）」という名称からも理解できる。中国では、目の充血、眼痛、結膜炎、多涙などの眼病と高血圧にも内服される。整腸の薬能は、16世紀の医学書『本草綱目』にも記述がないため、緩下成分の含有が明らかになった現代に見出されたものと考えられる。